

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873500650		
法人名	医療法人 河辺整形外科		
事業所名	グループホーム 浜っ子		
所在地	伊予郡松前町浜 8 5 8 番地 (電話) 089-984-2001		
管理者	清水 みずほ		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 7 月 22 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 7 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	11.7 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 20 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	4 名	要介護 2	5 名
要介護 3	3 名	要介護 4	3 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 82.5 歳	最低 58 歳	最高 95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの真向かいに中学校があり、柔軟な交流ができていたため、利用者の生活のハリや楽しみのひとつとなっている。近隣の田園地帯が大型ショッピングセンターに変わり、ここ数か月で環境はすっかり都市化している。同一敷地内に母体の医院があり、万全の連絡体制が整い、いち早く適切に対応することが可能となっており、利用者や家族の安心につながっている。管理者及び職員は、穏やかで礼儀正しい姿勢で、“自然で心からの笑顔”を軸にケアを展開しており、きめ細やかな支援が期待できる。明るくぬくもりがあり心むく快適なホームで、職員同士も仲良く支えあうことができていた。管理者は職員の育成に深い理解と情熱を注ぎ、協力的である。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

前回評価を受けて、地域との関わり、同業者との交流、ターミナルケア、災害対策などの課題があげられている。数か月前に管理者の異動があったが、課題に対して一つひとつ丁寧に前向きに取り組んでいく姿勢がみられたため、今後の取り組みに期待できる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

主任・管理者・職員数々が軸となってまとめ上げ、項目について全職員が確認するという方法で自己評価を作成している。今後は、項目一つひとつについて全職員が評価の意義やねらいを理解したうえで話し合いながら取り組んでいくことが望まれる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

衛生管理のアドバイスを頂いたり、大型ショッピングセンターの交通量のことなど、直接利用者に活かされる討議内容もある。町担当部署からの、他のグループホームとの交流案は、まだ達成できていない。会議を報告の場にとどめることなく、テーマを決めて学習する場、職員が運営できる場などとするにより、さらなる展開が期待できる。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

職員は、苦情や意見に対して傾聴し、素直に受け入れ、改善や対応を怠ることなく取り組んでいる。家族の苦情相談機関について第三者機関に広がりを持たせ、所在地・電話・時間などを分かりやすく重要事項説明書に記載することが望まれる。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

中学校、保育園との交流は盛んに行っている。地域の方との日々のお付き合いが深まり、井戸端会議が行なわれるほど開かれたホームを目指している。運営推進会議が地域と密着できる手段として活かされることを期待している。夏祭り、ミニコンサートなど新しい企画により、さらに地域との交流の場の提供も期待できる。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム浜っ子

(ユニット名)

3F

記入者(管理者)

氏 名

清水 みずほ

評価完了日

平成

年

月

日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) すでにある理念を、ミーティングにて見直し、改善・検討する。 (外部評価) “笑顔”を軸に、利用者のニーズに基づいて柔軟なサービスを提供している。切れ目のない支援を継続し、その人らしくより豊かで当たり前の暮らしが可能な方向に進んでいけるよう、ミーティング等で話し合いを持っている。	※	引き続き、現在の理念に基づき、サービスを継続する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 月1回のミーティングで、理念に基づくケアができているか、確認する。 (外部評価) 短い言葉で表現した理念は具体的で分かりやすく、職員は理念の中身を理解・共有できている。介護の現場で困った時や迷った時には理念に立ち返り、実例を上げながら確認し合っている。	※	1日に1度は目に入る場所に設置する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 毎月のお知らせの中に、文章でお知らせする。 見学・ボランティアなど、地域の方の訪問に際しては、基本理念を提唱する。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の途中に立ち寄ってもらえるように、休息の場所やトイレを提供している。	※	地域の一員として地域の交流の輪を広げていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 職場体験の受け入れや、保育園児さんの発表会を開催して、入居者さんとの交流に努める。	※	区長・民生委員・松前町社会福祉協議会に、行事ごと・地域活動に参加できる様に、情報提供していただくように働きかける。
			(外部評価) 中学校の生徒の職場体験を受け入れている。秋にはチューリップの球根を植え、春の訪れを利用者と共に楽しんだりしている。町内の人たちによる水軍太鼓の披露や、保育園との交流もある。	※	より地域との付き合いが深められるようなテーマを運営推進会議の議題に盛り込んだり、民生委員等の協力を得ながら土台を作り、さらに地域とのつながりが広がっていくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ミーティング時に話し合っているが、具体的な案には至っていないので、引き続き検討する。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 理解している。評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	※	外部評価結果を回覧し、改善に取り組む意識を持つようにしている。
			(外部評価) 自己評価は主任・管理者・職員数名でまとめ、他の職員がまとめた自己評価を確認するという流れで実施している。	※	評価の意義やねらいについて職員一人ひとりが深く理解することで、今後の取り組みが期待される。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) サービス向上に活用している。 (外部評価) 地域行事・老人会の報告や、ホームとして参加者から意見をいただくことが多く、現在は地域にホームを理解してもらいきっかけづくりの段階である。積極的な取り組みによって地域に開かれたサービスが展開できるよう、より会議の内容を深めていくことを期待する。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 疑問点や質問事項があれば、その都度、市町村に赴き相談している。市町村の研修に参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 町よりボランティア（利用者が楽しい時間を過ごせるために援助してくれる方）をお願いしている。訪問当日は2名の介護相談員の訪問日であったが、介護相談員は月1回、2時間程度ホームを訪問し、利用者に話を聞いたり様子を把握したりしている。町担当者との連携や協力は、日常的に行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 県やグループホーム協会からきた研修に参加し、理解を深めるようにしている。	※	職員間で共有できるようにしたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止に努めている。 研修資料や勉強会資料を回覧している。	※	職員全員に研修の参加を計画している。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) できている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 契約時に苦情窓口、市町村の苦情窓口を説明	※	苦情・意見・不満があれば、運営に反映させる。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月に1度は定期報告をしている。 また、利用者の状況に応じて、電話で報告・相談をしている。	※	報告の内容を今より充実したものになりたい。
			(外部評価) 家族は、利用者の健康状態、人間関係、リハビリテーションの様子等の情報を把握したいと思っており、来訪時には職員から積極的に声をかけ、様子を伝えるように努めている。請求書と共に運営推進会議の議事録や手紙も届けている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・不満・苦情があれば、その都度ミーティングを開き、対策を検討する。	※	市町村に対して苦情窓口があることをお知らせしている。
			(外部評価) 管理者を中心に、職員は穏やかで礼儀正しい姿勢で相談しやすい雰囲気づくりに努めており、家族からの信頼も厚い。意見や苦情は真摯に受け止め、苦情窓口については広く検討する予定である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 週に1度ミーティングを行い、機会を設けている。また、個人面談により、意見や提案を聞き、反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者の判断により、勤務の調整をしているが、職員からの提案による調整もし、協力してもらっている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 新規職員の増加により、利用者さんにダメージを与えた。 (外部評価) 管理者が同系列のホームより異動したように、たまの異動はあるが、利用者や家族の声を傾聴し、温かい言葉かけやありがとうの感謝を伝える努力をすることで利用者のダメージを防ぐよう配慮している。また、やむを得ない離職の場合はお別れ会等できちんと挨拶するなどしている。	※	職場環境を整え、労働意欲を高め、職員間の意見交換の機会を設ける。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) スキルアップのための研修を受けるように努めている。資格取得のための情報提供に努めている。 (外部評価) 職員は介護福祉士やホームヘルパー2級などの資格取得にチャレンジするなど意欲的であるが、研修は現在、やや停滞気味となっている。	※ ※	年に1～2回の研修参加のための勤務調整や人員配置を考慮したい。 職員のレベルアップによりサービスの質を向上させていくためにも研修機会の確保が必要であると思われるので、研修報告は全職員に伝達し、記録も閲覧できるような体制をとることが望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会への参加しようとする意欲はあるが、積極的にはできていない。 (外部評価) 町内には3つのグループホームがあるが（うち2つは同法人）、ネットワークづくりはこれからであり、職員を含めた交流機会の確保が今後の課題である。	※	グループホーム連絡協議会主催の研修会等、外部研修への参加をきっかけにして、交流の輪が広がっていくことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 意見や要望には、できる限り配慮している。話し合いの場を設けるようにしている。	※	すぐには改善できないが、職員のストレスが軽減するように努力したい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 管理者を通して、勤務状況は把握している。	※	職員個々の努力や実績については、声かけしたり、給料に反映するなどして評価していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前に数回訪問し適切な対応を検討している。他のサービスについても説明し、相談の上、本人・家族の了解のもとに支援している。	※	他のサービス事業者との連携や、情報交換をして、より適したサービスが提供できるようにしていきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族からの情報を集めることに重点を置き、馴染みながら利用していただけるよう配慮している。 (外部評価) 家族やケアマネジャーから詳細な情報を得ている。家族の来訪時や契約時、荷物搬入時等は、ホームに馴染んでもらう良い機会であると捉え、利用者が安心して過ごせるよう信頼関係を深めることに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす時間の中で、学んだり、共感することを大切にして、信頼し支えあえる関係を作っている。 (外部評価) 利用者同士の支え合いの場面に出会い、微笑ましく思うとともに感動を覚えた。職員は、利用者から調理方法、丁寧な洗濯物のたたみ方、家事一般のコツ、町の歴史や風習などを教わるが多く、お礼の言葉をかけるなど、人生の先輩としてきちんと感謝の心を伝え、尊重している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られる家族さんとは、良い関係ができています。請求書に近況を報告した文章を掲載している。	※	定期的な報告を文章で送付することを考えている。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族から詳しい情報を得るようにし、よりよい関係を築く努力をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 努めているが、全員にはできていない。	※	全員の方に浸透させる。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 相性や性格など把握して、孤立しないように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 相談があれば応じるが、積極的な働きかけはしていない。	※	継続的にして関わりを必要とする場合は検討したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員間での情報を共有するためのノートを作ったり、ケースカンファレンスを行う。 (外部評価) 理念のなかの「その人らしい人生が送れるように」を実践するために、笑顔で対応し、言葉かけの中から察知したり、家族に情報を聞くことも多い。オセロゲームや新聞を読むこと、食事の後片付けなどできることを大切にしながら、見守っている。	※	記録や申し送りを充実させる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にケアマネ・本人・家族から情報を集め、把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一日の流れの中で時間を追って記録を残し、状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の話を聞き、課題を引き出し、その人らしい生活が送れる介護計画を作っている。 (外部評価) まず利用者や家族の希望を聞いて軸となるものを作成し、健康保持を重点にして、アセスメントシートを参考に理念も柱にしながら立案している。	※	モニタリング技術の向上に努めたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の見直し時には、本人・家族・職員の話を聞き、反映されるようにしている。 (外部評価) 月に1回担当者会議を開催し評価を行っており、部分的な改善につなげている。同時に、見直し継続かを話し合い、介護計画に反映したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の記録は、細かく記録されているが、見直しには活かされていない。	※	計画見通しに活かされるように工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 敷地内に病院があり、デイケアの方々との交流もある。本人・家族の変化に合わせて受診・リハビリも行っている。また、専門医への紹介を行っている。 (外部評価) 管理者は介護と管理業務を兼任しており多忙であるが、多機能性を活かした支援には意欲的であり、準備もできている。実際の支援はこれからである。	※	支援内容において、できることとできないことを明確にマニュアル化することが望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアの方々の協力は得られているが、他方面での支援はまだ少ない。	※	関わりが深められるように努力したい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 介護保険以外のサービスについては、本人の希望に沿うように努力している。(往診・理容室・マッサージ等)	※	地域の介護従事者との話し合いの場を提供し、協力していただけるよう働きかける。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) できていない。	※	今後、会議や訪問の回数を増やして、協働していきたい。

13

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 「できること・できないこと」の見極めについては、準備段階である。	※	全員で方針を共有していることが必要であるので、早い時期に話し合いを持ちたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人や家族の希望により退所するに際して、必要な話し合い・情報交換を行い、ダメージを防ぐことに努めている。	※	今後とも、継続していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の取り扱いは慎重に行っている。 言葉かけや対応は、まだ徹底できていない部分もある。	※	ミーティングを利用して、職員のレベルアップを図りたい。
			(外部評価) 居室の入室時には必ずノックを行い、「開けていいですか」と声かけをしている。失禁時はさりげなく誘導し、目と目を合わせ耳元で声をかけ対応している。記録類は適切に取り扱っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 想いや希望を引き出す声かけを行い、自由な生活が出るように支援している。	※	能力に合わせた支援ができるように心がけたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ひとりひとりのペースに合わせ、希望通りの生活ができるように配慮している。 (外部評価) 理念に「その人らしい人生が送れるように」とあるように、日々の生活の中で利用者本人のペースに合わせた暮らしができるよう、職員と“阿吽の呼吸”で安心して過ごすことができるよう配慮しており、また一人ひとりの希望やペースの把握にも努めている。	※	意思表示が難しい方の対応
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 利用者個人個人が行きつけのところに行けるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニュー・作り方・盛り付け・配膳に参加していただいたり、声かけして、一緒にできることを増やす努力をしている。 (外部評価) 利用者や職員が考えたメニューで、一緒に楽しい会話を弾ませながら食事している。できることは手伝ってもらいようにしており、わきあいあいと準備や後片づけを行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ひとりひとりの希望や嗜好を聞き、可能な限り取り入れ、楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をつけて、排泄パターンを把握し、自立を目指して支援している。また、トイレ誘導や失禁への対応は、利用者を傷つけないように配慮している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 体調の変化に注意しながら、希望の曜日・時間帯に入浴できるよう支援している。 (外部評価) 機械浴の設備もあり、車いすの利用者などが利用して喜ばれている。拒否する利用者の場合は、温かい誘いかけにより寛いだ気分ですっきり入浴してもらうことができる。毎日の入浴も可能である。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活習慣を大切にしながら、精神面での安定を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 特技や趣味を活かしながら、日常生活が楽しく送れるように支援している。 (外部評価) 夕方になるとカーテンを閉める、昭和の歌のカラオケ、花の水やり、新聞たたみの整理、広告でのゴミ箱作り、調理の下ごしらえや盛り付け・配膳など、数多くの役割や楽しみごとを用意しており、個々に楽しく過ごすことが可能である。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる人にはしてもらい、外出時には見守る形をとっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 自由に散歩や買い物に出かけている。 買い物時に同行してもらっている。 (外部評価) 糖尿病のある利用者は職員見守りのうえで散歩することが日課となっている。買い物は希望に応じてスーパー等に車で出かけ、桜が咲く頃には大きいワゴン車で外出を支援している。利用者がいきいきと過ごせるような計画を立てて外出支援を行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 利用者と外出する事は、定期的に計画し実行している。 家族との外出の機会が作れていない。	※	今後増やしていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気兼ねなくホームに訪問でき、来訪時には心地よく過ごせるように配慮している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員一同、正しい理解のもとに身体拘束のないケアの実施を心がけている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間帯は防犯のため施錠しているが、日中は自由に出入りできるようにしている。 日中やむをえない場合、施錠することもあるが、最小限を心がけている。 (外部評価) ホームを一步出ると交通量の多い道路が目前にあり、職員は利用者が出て行く気配を見落とさないように、見守りや連携で対応している。夜間は防犯のため鍵をかけている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員間の連携、申し送りをするによって、安全に過ごせるように注意している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態を把握し、置く場所や形に気をつけている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやりハットの活用など、職員間で情報を交換し、事故防止に心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命講習を受けるように指導・手配している。	※	全員が講習が受けれるように計画を立てる。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に訓練を行う予定をしているが、地域の人々との連絡網ができていない。 (外部評価) 日中・夜間の緊急連絡方法を分かりやすく順序良くまとめ、壁面に貼っている。避難訓練は年1回行っているが、十分とはいえない。管理者は防火管理者の研修を受け、災害対策に熱心に取り組んでおり、昼・夜想定訓練実施を計画中である。	※ ※	地域の人たちの協力が得られるように働きかけていきたい。 今後、運営推進会議で地域の協力を求めている方向での討議を期待するとともに、避難訓練の定期的な実施を望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時や面会時に、リスクについての対応策を家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 時間を追って身体状況の把握に努めているため、迅速に対応できている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者ごとに作用・副作用がわかるように管理表を作成している。薬に変更があったときには、引継ぎノートによって連絡している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便のリズムを把握し、苦痛なく排便ができるように、水分補給、食事の工夫を心がけている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、各自に応じた口腔ケアを行うようにしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者に応じて量を変えたり、状態や器を変えている。 水分摂取にも気をつけている。	※	栄養士、介護士のアドバイスを受けて、充実した献立作りをしたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種を毎年行っている。 マニュアルによる職員の研修を実施するよう計画している。	※	早急に研修し、職員間で徹底したい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 買い置きはあまりせず、常に新鮮な食材を使っている。 食器類、調理用具や布巾は、毎日消毒している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 病院隣接のため、玄関を出ると駐車スペースになっており、あまり物を置いたりできないが、建物の周りに花を植えたり、ベンチを配置している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が出るように工夫し、広い空間を作り、自由に行き来できるようにしている。 (外部評価) 一堂に集う広い居間は、車いすの利用者も安心してゆっくり活動することができ、全利用者にとって使いやすく心地良い空間となっている。調理の音やメニューの分かる匂いを常を感じるができる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者がそれぞれテーブル・ソファのとことで落ち着いていられるよう居場所を確保している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が家で使っていたなじみの物や好きなものを使っている。 (外部評価) 共用空間で過ごす時間が長いので、居室はシンプルにまとめている利用者も居る。手押し車・写真・テレビ・植木鉢など、一人ひとりにとって大切な物品を家族の協力のもと持ち込んでおり、落ち着いた居室となっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気や湿度調節に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自立支援を目指すため、可能な限り手すりを設置し、浴室にはスリップ止めをしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室には名札、トイレ、風呂もわかりやすく表示されている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花や野菜作りができるようにしている。 ベンチを置き、外で過ごすことができるようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	新しい入居者さんがいるため、完全とはいえない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	時間がある限り、一緒に作業をしたり、散歩に行ったりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんは、自分の時間を持って、有意義に使われ、希望がかなうように、ニーズに応えられるように努力している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	車椅子でトイレに行かれる場合、職員がひと声かけて介助にすぐ行く事をお伝えしているから、安心して入り口の方へ向かわれている様子である。利用者の状態に応じた対応に心がけ、目を見て話すようにしているので、表情の変化が良くわかる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	付近での行事、祭りや外食、朝市、花見など利用者の希望を優先して計画を立てている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	病院が併設されていること。 個人の訴えに丁寧に応え、希望があれば受診も手配している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの要望が本人さんに必要かつプラスになるかを本人と複数の職員で話し合い、最良と思われる方法を選んでいる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	管理者と職員は多忙な中でも、十分に時間をとり、ご家族さんとのコミュニケーションをしっかりととることに努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	年に数回行かれる行事等に、デイサービスに通われている人たちとの交流の場があり、和やかにお互い話をされる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	2ヶ月に1度、役場の担当の方や、自治会の方と話し合いの場を設け、ホーム内では得られない知識や情報をキャッチすることに意欲的である。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	新しい職員が多いため、コミュニケーションが取れるように話し合いの場を多くしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの要望が全て利用者さんのためになるとは思えないときもあるのだ。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	利用者さんのご家族が全員ご来所されているわけではないので。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム浜っ子

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

清水 みずほ

評価完了日

平成

年

月

日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) すでにある理念を、ミーティングにて見直し、改善・検討する。 (外部評価) “笑顔”を軸に、利用者のニーズに基づいて柔軟なサービスを提供している。切れ目のない支援を継続し、その人らしくより豊かで当たり前の暮らしが可能な方向に進んでいけるよう、ミーティング等で話し合いを持っている。	※	引き続き、現在の理念に基づき、サービスを継続する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 月1回のミーティングで、理念に基づくケアができているか、確認する。 (外部評価) 短い言葉で表現した理念は具体的で分かりやすく、職員は理念の中身を理解・共有できている。介護の現場で困った時や迷った時には理念に立ち返り、実例を上げながら確認し合っている。	※	1日に1度は目に入る場所に設置する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 毎月のお知らせの中に、文章でお知らせする。 見学・ボランティアなど、地域の方の訪問に際しては、基本理念を提唱する。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩の途中に立ち寄ってもらえるように、休息の場所やトイレを提供している。	※	地域の一員として地域の交流の輪を広げていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 職場体験の受け入れや、保育園児さんの発表会を開催して、入居者さんとの交流に努める。	※	区長・民生委員・松前町社会福祉協議会に、行事ごと・地域活動に参加できる様に、情報提供していただくように働きかける。
			(外部評価) 中学校の生徒の職場体験を受け入れている。秋にはチューリップの球根を植え、春の訪れを利用者と共に楽しんだりしている。町内の人たちによる水軍太鼓の披露や、保育園との交流もある。	※	より地域との付き合いが深められるようなテーマを運営推進会議の議題に盛り込んだり、民生委員等の協力を得ながら土台を作り、さらに地域とのつながりが広がっていくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ミーティング時に話し合っているが、具体的な案には至っていないので、引き続き検討する。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 理解している。評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	※	外部評価結果を回覧し、改善に取り組む意識を持つようにしている。
			(外部評価) 自己評価は主任・管理者・職員数名でまとめ、他の職員がまとめた自己評価を確認するという流れで実施している。	※	評価の意義やねらいについて職員一人ひとりが深く理解することで、今後の取り組みが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) サービス向上に活用している。		
			(外部評価) 地域行事・老人会の報告や、ホームとして参加者から意 見をいただくことが多く、現在は地域にホームを理解し てもらいきっかけづくりの段階である。積極的な取組 みによって地域に開かれたサービスが展開できるよう、 より会議の内容を深めていくことを期待する。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 疑問点や質問事項があれば、その都度、市町村に赴き相 談している。市町村の研修に参加して、サービスの質の 向上に取り組んでいる。		
			(外部評価) 町よりボランティア（利用者が楽しい時間を過ごせるた めに援助してくれる方）をお願いしている。訪問当日は 2名の介護相談員の訪問日であったが、介護相談員は月 1回、2時間程度ホームを訪問し、利用者に話を聞いたり 様子を把握したりしている。町担当者との連携や協力は、 日常的に行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 県やグループホーム協会からきた研修に参加し、理解を 深めるようにしている。	※	職員間で共有できるようにしたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止に努めている。 研修資料や勉強会資料を回覧している。	※	職員全員に研修の参加を計画している。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) できている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 契約時に苦情窓口、市町村の苦情窓口を説明	※	苦情・意見・不満があれば、運営に反映させる。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月に1度は定期報告をしている。 また、利用者の状況に応じて、電話で報告・相談をしている。	※	報告の内容を今より充実したものになりたい。
			(外部評価) 家族は、利用者の健康状態、人間関係、リハビリテーションの様子等の情報を把握したいと思っており、来訪時には職員から積極的に声をかけ、様子を伝えるように努めている。請求書と共に運営推進会議の議事録や手紙も届けている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・不満・苦情があれば、その都度ミーティングを開き、対策を検討する。	※	市町村に対して苦情窓口があることをお知らせしている。
			(外部評価) 管理者を中心に、職員は穏やかで礼儀正しい姿勢で相談しやすい雰囲気づくりに努めており、家族からの信頼も厚い。意見や苦情は真摯に受け止め、苦情窓口については広く検討する予定である。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 週に1度ミーティングを行い、機会を設けている。また、個人面談により、意見や提案を聞き、反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者の判断により、勤務の調整をしているが、職員からの提案による調整もし、協力してもらっている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 新規職員の増加により、利用者さんにダメージを与えた。 (外部評価) 管理者が同系列のホームより異動したように、たまの異動はあるが、利用者や家族の声を傾聴し、温かい言葉かけやありがたの感謝を伝える努力をすることで利用者のダメージを防ぐよう配慮している。また、やむを得ない離職の場合はお別れ会等できちんと挨拶するなどしている。	※	職場環境を整え、労働意欲を高め、職員間の意見交換の機会を設ける。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) スキルアップのための研修を受けるように勧めている。資格取得のための情報提供に努めている。 (外部評価) 職員は介護福祉士やホームヘルパー2級などの資格取得にチャレンジするなど意欲的であるが、研修は現在、やや停滞気味となっている。	※	年に1～2回の研修参加のための勤務調整や人員配置を考慮したい。
				※	職員のレベルアップによりサービスの質を向上させていくためにも研修機会の確保が必要であると思われるので、研修報告は全職員に伝達し、記録も閲覧できるような体制をとることが望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会への参加しようとする意欲はあるが、積極的にはできていない。 (外部評価) 町内には3つのグループホームがあるが（うち2つは同法人）、ネットワークづくりはこれからであり、職員を含めた交流機会の確保が今後の課題である。	※	グループホーム連絡協議会主催の研修会等、外部研修への参加をきっかけにして、交流の輪が広がっていくことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 意見や要望には、できる限り配慮している。話し合いの場を設けるようにしている。	※	すぐには改善できないが、職員のストレスが軽減するように努力したい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 管理者を通して、勤務状況は把握している。	※	職員個々の努力や実績については、声かけしたり、給料に反映するなどして評価していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 努力している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前に数回訪問し適切な対応を検討している。他のサービスについても説明し、相談の上、本人・家族の了解のもとに支援している。	※	他のサービス事業者との連携や、情報交換をして、より適したサービスが提供できるようにしていきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族からの情報を集めることに重点を置き、馴染みながら利用していただけるよう配慮している。 (外部評価) 家族やケアマネジャーから詳細な情報を得ている。家族の来訪時や契約時、荷物搬入時等は、ホームに馴染んでもらう良い機会であると捉え、利用者が安心して過ごせるよう信頼関係を深めることに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす時間の中で、学んだり、共感することを大切にして、信頼しあえる関係を作っている。 (外部評価) 利用者同士の支え合いの場面に出会い、微笑ましく思うとともに感動を覚えた。職員は、利用者から調理方法、丁寧な洗濯物のたたみ方、家事一般のコツ、町の歴史や風習などを教わるが多く、お礼の言葉をかけるなど、人生の先輩としてきちんと感謝の心を伝え、尊重している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られる家族さんとは、良い関係ができている。請求書に近況を報告した文章を掲載している。	※	定期的な報告を文章で送付することを考えている。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族から詳しい情報を得るようにし、よりよい関係を築く努力をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 努めているが、全員にはできていない。	※	全員の方に浸透させる。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 相性や性格など把握して、孤立しないように配慮している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 相談があれば応じるが、積極的な働きかけはしていない。	※	継続的にして関わりを必要とする場合は検討したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員間での情報を共有するためのノートを作ったり、ケースカンファレンスを行う。 (外部評価) 理念のなかの「その人らしい人生が送れるように」を実践するために、笑顔で対応し、言葉かけの中から察知したり、家族に情報を聞くことも多い。オセロゲームや新聞を読むこと、食事の後片付けなどできることを大切にしながら、見守っている。	※	記録や申し送りを充実させる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にケアマネ・本人・家族から情報を集め、把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一日の流れの中で時間を追って記録を残し、状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の話を聞き、課題を引き出し、その人らしい生活が送れる介護計画を作っている。 (外部評価) まず利用者や家族の希望を聞いて軸となるものを作成し、健康保持を重点にして、アセスメントシートを参考に理念も柱にしながら立案している。	※	モニタリング技術の向上に努めたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の見直し時には、本人・家族・職員の話を聞き、反映されるようにしている。 (外部評価) 月に1回担当者会議を開催し評価を行っており、部分的な改善につなげている。同時に、見直し継続かを話し合い、介護計画に反映したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日常の記録は、細かく記録されているが、見直しには活かされていない。	※	計画見通しに活かされるように工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 敷地内に病院があり、デイケアの方々との交流もある。本人・家族の変化に合わせて受診・リハビリも行っている。また、専門医への紹介を行っている。 (外部評価) 管理者は介護と管理業務を兼任しており多忙であるが、多機能性を活かした支援には意欲的であり、準備もできている。実際の支援はこれからである。	※	支援内容において、できることとできないことを明確にマニュアル化することが望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアの方々の協力は得られているが、他方面での支援はまだ少ない。	※	関わりが深められるように努力したい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 介護保険以外のサービスについては、本人の希望に沿うように努力している。(往診・理容室・マッサージ等)	※	地域の介護従事者との話し合いの場を提供し、協力していただけるよう働きかける。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) できていない。	※	今後、会議や訪問の回数を増やして、協働していきたい。

36

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 「できること・できないこと」の見極めについては、準備段階である。	※	全員で方針を共有していることが必要であるので、早い時期に話し合いを持ちたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人や家族の希望により退所するに際して、必要な話し合い・情報交換を行い、ダメージを防ぐことに努めている。	※	今後とも、継続していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の取り扱いは慎重に行っている。 言葉かけや対応は、まだ徹底できていない部分もある。	※	ミーティングを利用して、職員のレベルアップを図りたい。
			(外部評価) 居室の入室時には必ずノックを行い、「開けていいですか」と声かけをしている。失禁時はさりげなく誘導し、目と目を合わせ耳元で声をかけ対応している。記録類は適切に取り扱っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 想いや希望を引き出す声かけを行い、自由な生活が出るように支援している。	※	能力に合わせた支援ができるように心がけたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ひとりひとりのペースに合わせ、希望通りの生活ができるように配慮している。 (外部評価) 理念に「その人らしい人生が送れるように」とあるように、日々の生活の中で利用者本人のペースに合わせた暮らしができるよう、職員と“阿吽の呼吸”で安心して過ごすことができるよう配慮しており、また一人ひとりの希望やペースの把握にも努めている。	※	意思表示が難しい方の対応
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 利用者個人個人が行きつけのところに行けるよう支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニュー・作り方・盛り付け・配膳に参加していただいたり、声かけして、一緒にできることを増やす努力をしている。 (外部評価) 利用者や職員が考えたメニューで、一緒に楽しい会話を弾ませながら食事している。できることは手伝ってもらうようにしており、わきあいあいと準備や後片づけを行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ひとりひとりの希望や嗜好を聞き、可能な限り取り入れ、楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表をつけて、排泄パターンを把握し、自立を目指して支援している。また、トイレ誘導や失禁への対応は、利用者を傷つけないように配慮している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 体調の変化に注意しながら、希望の曜日・時間帯に入浴できるよう支援している。 (外部評価) 機械浴の設備もあり、車いすの利用者などが利用して喜ばれている。拒否する利用者の場合は、温かい誘いかけにより寛いだ気分でゆっくり入浴してもらうことができる。毎日の入浴も可能である。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活習慣を大切にしながら、精神面での安定を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 特技や趣味を活かしながら、日常生活が楽しく送れるように支援している。 (外部評価) 夕方になるとカーテンを閉める、昭和の歌のカラオケ、花の水やり、新聞たたみの整理、広告でのゴミ箱作り、調理の下ごしらえや盛り付け・配膳など、数多くの役割や楽しみごとを用意しており、個々に楽しく過ごすことが可能である。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる人にはしてもらい、外出時には見守る形をとっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 自由に散歩や買い物に出かけている。 買い物時に同行してもらっている。 (外部評価) 糖尿病のある利用者は職員見守りのうえで散歩することが日課となっている。買い物は希望に応じてスーパー等に車で出かけ、桜が咲く頃には大きいワゴン車で外出を支援している。利用者がいきいきと過ごせるような計画を立てて外出支援を行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 利用者と外出する事は、定期的に計画し実行している。 家族との外出の機会が作れていない。	※	今後増やしていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気兼ねなくホームに訪問でき、来訪時には心地よく過ごせるように配慮している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員一同、正しい理解のもとに身体拘束のないケアの実施を心がけている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間帯は防犯のため施錠しているが、日中は自由に出入りできるようにしている。 日中やむをえない場合、施錠することもあるが、最小限を心がけている。 (外部評価) ホームを一步出ると交通量の多い道路が目前にあり、職員は利用者が出て行く気配を見落とさないように、見守りや連携で対応している。夜間は防犯のため鍵をかけている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員間の連携、申し送りをするによって、安全に過ごせるように注意している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態を把握し、置く場所や形に気をつけている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやりハットの活用など、職員間で情報を交換し、事故防止に心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命講習を受けるように指導・手配している。	※	全員が講習が受けれるように計画を立てる。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に訓練を行う予定をしているが、地域の人々との連絡網ができていない。 (外部評価) 日中・夜間の緊急連絡方法を分かりやすく順序良くまとめ、壁面に貼っている。避難訓練は年1回行っているが、十分とはいえない。管理者は防火管理者の研修を受け、災害対策に熱心に取り組んでおり、昼・夜想定訓練実施を計画中である。	※ ※	地域の人たちの協力が得られるように働きかけていきたい。 今後、運営推進会議で地域の協力を求めている方向での討議を期待するとともに、避難訓練の定期的な実施を望む。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時や面会時に、リスクについての対応策を家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 時間を追って身体状況の把握に努めているため、迅速に対応できている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者ごとに作用・副作用がわかるように管理表を作成している。薬に変更があったときには、引継ぎノートによって連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便のリズムを把握し、苦痛なく排便ができるように、水分補給、食事の工夫を心がけている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、各自に応じた口腔ケアを行うようにしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者に応じて量を変えたり、状態や器を変えている。 水分摂取にも気をつけている。 (外部評価) 各居室にはペットボトルが持ち込まれ、必要な時に飲むことができるとともに、職員も水分量の確認を行っている。献立は旬の食材や利用者の好み等により作成しており、栄養バランスのチェックを保健センターの管理栄養士にお願いするよう計画している。	※	栄養士、介護士のアドバイスを受けて、充実した献立作りをしたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種を毎年行っている。 マニュアルによる職員の研修を実施するよう計画している。	※	早急に研修し、職員間で徹底したい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 買い置きはあまりせず、常に新鮮な食材を使っている。 食器類、調理用具や布巾は、毎日消毒している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 病院隣接のため、玄関を出ると駐車スペースになっており、あまり物を置いたりできないが、建物の周りに花を植えたり、ベンチを配置している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が出るように工夫し、広い空間を作り、自由に行き来できるようにしている。 (外部評価) 一堂に集う広い居間は、車いすの利用者も安心してゆっくり活動することができ、全利用者にとって使いやすく心地良い空間となっている。調理の音やメニューの分かる匂いを常を感じるができる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者がそれぞれテーブル・ソファのとことで落ち着いていられるよう居場所を確保している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が家で使っていたなじみの物や好きなものを使っている。 (外部評価) 共用空間で過ごす時間が長いので、居室はシンプルにまとめている利用者も居る。手押し車・写真・テレビ・植木鉢など、一人ひとりにとって大切な物品を家族の協力のもと持ち込んでおり、落ち着いた居室となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気や湿度調節に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自立支援を目指すため、可能な限り手すりを設置し、浴室にはスリップ止めをしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室には名札、トイレ、風呂もわかりやすく表示されている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 花や野菜作りができるようにしている。 ベンチを置き、外で過ごすことができるようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	新しい入居者さんがいるため、完全とはいえない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	時間がある限り、一緒に作業をしたり、散歩に行ったりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者さんは、自分の時間を持って、有意義に使われ、希望がかなうように、ニーズに応えられるように努力している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	車椅子でトイレに行かれる場合、職員がひと声かけて介助にすぐ行く事をお伝えしているから、安心して入り口の方へ向かわれている様子である。利用者の状態に応じた対応に心がけ、目を見て話すようにしているので、表情の変化が良くわかる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	付近での行事、祭りや外食、朝市、花見など利用者の希望を優先して計画を立てている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	病院が併設されていること。個人の訴えに丁寧に応え、希望があれば受診も手配している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	利用者さんの要望が本人さんに必要かつプラスになるかを本人と複数の職員で話し合い、最良と思われる方法を選んでいる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	管理者と職員は多忙な中でも、十分に時間をとり、ご家族さんとのコミュニケーションをしっかりととることに努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	年に数回行かれる行事等に、デイサービスに通われている人たちとの交流の場があり、和やかにお互い話をされる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	2ヶ月に1度、役場の担当の方や、自治会の方と話し合いの場を設け、ホーム内では得られない知識や情報をキャッチすることに意欲的である。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	新しい職員が多いため、コミュニケーションが取れるように話し合いの場を多くしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんの要望が全て利用者さんのためになるとは思えないときもあるのだ。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	利用者さんのご家族が全員ご来所されているわけではないので。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)